

小児生活習慣病予防のための体組成測定に関する疫学研究

Japan Kids Body Composition study

(日本人小児体組成研究)

研究の背景

虚血性心疾患や脳血管疾患さらに骨粗鬆症などの疾患は、小児期から成人期に至る長年の生活習慣の蓄積によって生じます。この生活習慣の形成には学齢期における健康教育や生活指導が影響します。

近畿大学では、2008年から幼児・小中学校の児童・生徒を対象に、我が国に一台しかないDXA法測定装置搭載バスを園・学校に持ち込み、体脂肪を含む体組成を測定しています。また、採血を行い、その保存血清を用いて測定した動脈硬化、メタボリックシンドローム、骨代謝に関連した項目や、食生活や環境因子、成長や発達の経過など、種々の関連因子と体組成との関係について研究しています。

研究の目的・方法

本研究の目的は、各園・学校とその園児・児童・生徒に「小児生活習慣病予防のための体組成測定調査」を呼びかけ、学校単位でのポピュレーションベースの体組成データを収集し、体組成の性別・年齢別標準値を作成すると共に、体組成と発達や他の因子との関係について検討することです。

研究の対象と研究方法

対象は、二重エネルギーエックス線吸収法（DXA法）による体組成測定を希望する保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校とそこに在籍する子どもたち（本人および保護者の同意の得られた者、卒業生を含む）です。

研究方法は以下の通りです。

- 研究参加に文書で同意した子どもたちの体組成をDXA法により測定する。
- 動脈硬化・メタボリックシンドローム・骨代謝に関連した項目について血液検査を行う。検査項目は、血糖、血球数、脂質、腎機能、肝機能をみる一般的な血液検査項目（AST、ALT、 γ -GTP、BUN、クレアチニン、総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール、トリグリセライド、インスリン、HbA1c、血糖）の他、血中のビタミン、骨代謝産物、骨形成調節因子、骨吸収調節因子、アディポカイン、細胞増殖因子、CRP、ホモシステイン、糖酸化物、酸化的障害産物、ステロイドホルモン、炎症性サイトカインである。
- 身長、体重、腹囲、握力、血圧の測定を行う。
- 過去の学校での定期健診の結果、対象者の乳幼児健診の結果、学校健診や新体力テストの結果を利用する。
- アンケート調査を行い、運動・遊び・ゲーム・食事などの生活習慣、現在や過去の病気の有無、過去の発育状態、母親の体格の情報を入手する。

研究期間は2029年3月31日までとし、全ての試料・情報は研究終了後の5年後にシュレツダ

一処理、あるいは焼却処分、あるいは施設基準に従って廃棄します。

個人情報の扱いと保存資料の研究利用の拒否

本研究で得られた個人情報は、近畿大学医学部公衆衛生学教室および学校で厳重に管理、保管されています。研究結果は、ご本人の健康管理の他、市町村の予防対策や医学の発展に役立てるために報告書や論文として公表します。しかし、その場合にも個人情報は保護されています。なお、「小児生活習慣病予防のための体組成測定調査」の受診は任意であり、さらに、現在までに近畿大学に保管されている過去の研究データが、今後研究に用いられることについてご了承いただけなくなった場合には、該当する研究資料を廃棄しますので、下記の連絡先までお申出ください。なお、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので、その場合はお申出下さい。

研究計画変更履歴

2018年6月

- 研究期間の延長：当初の研究期間では、本研究目的を達することが困難と予想されるため、研究期間を2018年から2029年3月31日に延長しました。

連絡先

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 377-2

近畿大学医学部公衆衛生学教室

TEL 072-366-0221 (内線 3272)

FAX 072-367-8262

研究責任者：甲田 勝康